

山口県労福協機関紙



連 合 山 口  
 労 働 金 庫  
 全 労 済 山 口  
 県 生 協 連  
 1 3 地 区 労 福 協



社団法人  
 山口県労働者福祉協議会  
 山口市緑町3番29号  
 〒753-0078  
 電話 (083) 925-7332  
 FAX (083) 921-1650  
 Eメール roufuku@orange.ocn.ne.jp  
 発行人 加藤 栄  
 編集人 大塚 健二

## 第32回福祉メーデー山口県集会開催

～連帯・協同で安心・共生の福祉社会をつくろう～



11月10日(水)13時より、県労福協会館にて地区労福協・連合山口・労金・全労済・生協連・高退連合から約70名が参集し、第32回福祉メーデー山口県集会を開催しました。杉本副会長の開会挨拶に続き、議長には周南地区労福協の天満副会長を満場一致で選出しました。主催者を代表して中野会長は、「溜め(掘り所)のない人が増えている中で、セーフティーネット(安全網)の拡充について、現在パーソナル・サポート・サービス事業(PSS事業)も含め、政府において検討が進められている。我々も県労福協に結集する仲間とともに、拡充の必要性について声を上げていく必要がある。県労福協はこれまで“生活あんしんネット事業”や“しゅうなん若者サポステ事業”“住宅困窮離職者自立支援事業”等を行っているが、こうした事業を今後もっと拡充していかなければならないと決意している。」と挨拶しました。引き続き加藤専務より「新年度の対県要請事項について」、中国労金山口県営業本部の山根事務局長より「お金の問題！第2次気づきキャンペーンについて」、全労済山口県本部の瀬川事業推進

部長より「自賠償共済が全労済の経営に与える影響」、山口県生協連の吉崎専務より「山口県生協連の主な活動について」基調報告がされ、満場一致承認されました。続いて、第20回勤労者文化展の表彰を行い、集会宣言、スローガン採択で集会を終了しました。

福祉メーデー終了後、中央労福協の高橋事務局長より「労福協の理念と2020年ビジョン」というテーマで特別講演会を開催しました。講演では事業団体(労金・全労済)が誕生した“いきさつ”を紹介するとともに、改めて事業団体と労働組合の関係の再強化の必要性を訴えました。また貧困社会日本からの脱却では、「民間給与実態統計調査(2008年国税庁)によれば、1994年比で全ての層で年収が低下しており、とりわけワーキングプアといわれる年収200万円以下の層が17.7%から23.3%に大幅に増加している。こうした200万円以下の層をなくすためには、最低賃金の1,000円への引き上げが極めて重要な取り組みになる。是非取り組みを強化していただきたい」と強く要請されました。



—中央労福協 高橋事務局長—



—聴講生のみなさん—

最後に今後10年間を見据えた労福協の求められる運動スタイル“かすがい役”を紹介し、終了しました。

## 2010年度 第3回理事会開催

9月15日(水)に2010年度第3回理事会を労福協会館で、理事13名・監事1名の出席で開催しました。開会にあたり中野会長は「先日山口放送ニュースで放映された“長穂ファーマー養成講座事業”を見て、その地道な取り組みと着実な成果をあげていることに対し胸が熱くなった。今日の雇用環境の厳しさを反映して、“無料職業紹介事業”は、昨年度に比べて相談件数が大幅に増加している。今後も県労福協が取り組みしている“生活あんしんネット”や“しゅうなん若者サポステ”事業を積極的に展開し、地域に根差した活動を引き続き展開したい」と挨拶しました。続いて加藤専務より一般経過報告および課題別報告を行い、緊急雇用創出事業として内閣府が進めている「パーソナル・サポート・サービス事業」については、今後山口県労福協が“事

業の導入に向けた諸会議に参加していく”ことも含め承認されました。次に第1号議案の福祉強化月間の取り組みについては具体的な取り組み内容等を提案し承認されました。第2号議案の司法修習生に対する給与の支給継続を求める取り組みについては、山口県労福協は団体として賛同し、賛同の申込書を中央労福協に提出することで承認されました。最後に今後の日程について確認し終了しました。



## 第61回 政策研究委員会報告

9月27日(月)に第61回の政策研究委員会を委員16名出席で労福協会館において開催しました。中野委員長より「尖閣諸島での中国漁船接触に端を発した中国との問題、大阪地検検事による証拠データの改ざん事件、さらには失業率の高止まりなど色々な不安要素が多い。民主党政権になってから各種審議会などに労働者の代表が加わるなど、働く者の声を通りやすい環境が整いつつあり、本政策研究委員会でもこれまでもまして調査・研究を活発に進めていただきたい。」との挨拶に続き、高野座長から「大阪での学会で『生きづらさ・生きにくさ』と言う言葉が出てきた。また、現在生活保護を190万世帯が受給され

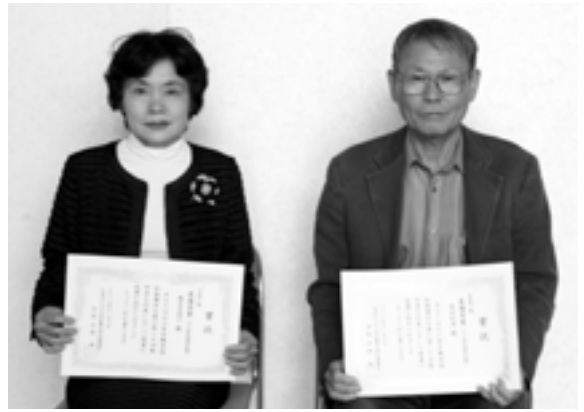
ているなどいわゆる貧困の問題はまだ多い。これらに目を向けた研究にも繋げられれば」と挨拶がありました。報告事項では、生活あんしんネット・しゅうなん若者サポステ・住宅困窮離職者自立支援の各事業実績報告に続き、個人研究テーマの「地域における若年雇用問題とキャリア形成」について、浜島先生（山口大学）より中間報告がありました。協議事項では、新年度調査・研究課題の「構造改革と日本の雇用・賃金システムを促進する研究」のプロジェクトコアメンバー第1回会議報告がありました。いずれも政治・社会・経済環境による歪を内包した大きなテーマであり、今後の研究報告に期待したいものです。

# 第20回 山口県労福協勤労者文化展

～最優秀には写真の部：西村 利満氏、洋画の部：橋本 美保子氏～

山口県労福協勤労者文化展は、勤労者の充実した芸術文化活動の促進を図ることを目的とした県労福協の事業であり、今年度は節目の20回目の開催になりました。今回の文化展には写真の部37点、洋画の部30点、書画1点の出品がありました。審査員は写真の部は写真家の栗林和彦氏と下瀬信雄氏、洋画の部は武田雅行氏（山口芸大）と菊屋吉生氏（山口大学）、書画の部は岡正哉氏（県書道連盟）で行われました。審査員からは、写真の部では「デジタルカメラが普及し、多くの人が素晴らしい写真を撮れるようになった。それに伴い新しい表現も出てきて楽しい。その割に身近な風景が少なかったような気がする。日常の家族や何気ない生活の中の一コマの写真を期待します。」、洋画の部では「今年もしっ

かりと描き込まれた作品が出品されました。自分の絵画のスタイルとして定着している方も多く見受けられます。新しい表現にチャレンジされるのも楽しいものです。挑戦してみてください。」とそれぞれ総評をいただきました。



—最優秀賞の橋本美保子さん(左)と西村利満さん(右)—

## 【写真の部】

賞	氏名	作品名	職場・労働組合名
最優秀（山口県労福協会長賞）	西村 利満	友達	神鋼特殊鋼管労組OB
優秀（連合山口会長賞）	剣持 研治	山の珊瑚礁	〃
優秀（中国労金山口県本部長賞）	今田 徹二	思い	中国電力ユニオン
優秀（全労済山口県本部理事長賞）	中野 英治	宵宮万燈明	三菱重工労組下船支部OB
優秀（山口県生協連会長賞）	竹内 秀登	願いを乗せて	大晃機械工業(株)

## 【洋画の部】

賞	氏名	作品名	職場・労働組合名
最優秀（山口県労福協会長賞）	橋本美保子	老木	小林耳鼻咽喉科医院OB
優秀（連合山口会長賞）	鬼頭 征一	造船	三菱重工労組下船支部
優秀（中国労金山口県本部長賞）	丸山 正博	舟だまり	三菱重工労組下船支部OB
優秀（全労済山口県本部理事長賞）	河村 敏江	ねこじゃらし	周南市役所
優秀（山口県生協連会長賞）	村上 末子	大樹	日本郵便事業(株)光支店

## 中小企業勤労者の共済事業の充実と強化に関する要請行動を実施!!

11月15日(月)・16日(火)に県労福協から中野会長・加藤専務・大塚事務局長が、地区労福協からは会長・副会長・事務局長が同行し、未組織の中小企業勤労者の福祉の向上を目指して周南・下松・光・柳井・岩国各市の勤労福祉共済会会長宛に共済会事業の充実と強化に関する要請書を提出しました。



—下松市勤労福祉共済会—

この事業は、中小企業の勤労者に対し事業主が従業員の福利厚生制度の一環として掛金を負担する「ハートピア共済」制度で、各種給付のほか人間ドック・脳ドックの受診助成や全国の宿泊施設利用料助成などもあり加入者にとってメリットの大きい制度です。しかしながら、近年の経済環境の厳しさもあって平成22年5月には加入者数が27,171人(対前年▲1,597人)、加入口数は53,722口(対前年▲3,348口)と減少傾向が続いています。このような状況を踏まえ、中野会長から「厳しい時だからこそ勤労者の安心を少しでも向上させるべく、ハートピア共済事業の広報活動・加入促進活動に各地区行政機関や地区勤労福祉共済会としてこれまで以上にご尽力をお願いしたい」との強い要請と合わせ、要請書を手交しました。

## 福祉なんでも相談会 in美祢 開催

生活あんしんネット事業の一環として毎年1回1地区で開催している福祉なんでも相談会。今年は美祢地区労福協の協力により10月23日(日)に美祢市「サンワーク美祢」で開催しました。相談会では児童福祉・高齢者福祉・障害者福祉等に関わる様々な問題に、認知症介護指導者として活躍中の十楽浩之社会福祉士が無料でお応えしています。この相談会は予約制で時間制限もしていないため相談者はじっくり話すことができます。

他地域の方や当日来られなかった方は、常時開設している「生活あんしんネット」をご利用ください。  
(電話 0120-050-783)





**地区労福協だより****◇周南地区労福協「親子ふれあい行事」開催◇**

周南地区労福協では親子が自然の中でふれあながら楽しむことのできる企画として「親子ふれあい行事 in船方農場」を毎年開催しています。今年は9月27日(日)に開催し、暖かい時期に開催できたこともあって、例年の「牛の乳搾り」、「シャーベット作り」に加え、「鮎のつかみ獲り」体験やハラハラ?の「制限時間釣りゲーム」を行いました。特に盛り上がったのが「鮎のつかみ獲り」で、子供たちは今か今かと開始を待ちわび、合図と同時に小川へ飛び込んだかと思うと、予想通り全身ずぶ濡れになりながら鮎がくたくたになるまで追いかけまわしていました。昼食のバーベキューでは、美味しい船方牛や獲れ

たばかりの鮎を焼くなどして、心地よい秋空のもと開放感いっぱいの食事を楽しみ、参加された54家族209名の皆さんには楽しい親子ふれあいの一日を過ごしていただけたのではないかと思います。

**◇山口地区労福協「市民労働福祉セミナー」開催◇**

10月26日(火)労福協会館4階大会議室で山口県・山口市の共催で「山口市民労働福祉セミナー」を開催しました。今回のテーマは「痴呆症」で、初めに山口市地域包括支援センターによる「認知症サポーター要請講座」を、続いて山口県立大学社会福祉学部の横山正博教授を講師として迎え「認知症を正しく理解しよう」の演題で講演を行いました。



認知症の主な症状は物忘れであり、認知症患者本人の不安等を周囲が理解することの大切さ等、認知症に対する正しい知識や対応方法の説明がありました。会場には各会員団体や一般市民の方等総勢91名が集まりました。

セミナー終了後に「認知症サポーター登録」した方には認知症への理解者であることを示すオレンジリングが配られました。



## 中国労金が9分野10団体に寄付金配分

—「ろうきんNPO寄付システム」の授与式開催—

「ろうきんNPO寄付システム」は、2006年度からやまぐち県民ネット21も参画し中国労働金庫と協同して山口県内のNPO支援を広げています。この寄付システムは、預金者がNPOに対して、毎月100円以上または一時金として労金普通預金口座から自動引落として寄付を行い、NPOを支援、協力するものです。今回4度目を迎える2009年度の寄付金について審査の結果、9分野10団体に各5万円、総額50万円を寄付することを決定し、決定団体には山口市にて授与式と意見交換会を開催いたしました。

授与式には、中国労働金庫が助成するNPO立上げ助成金制度助成団体も参加し、交流を深めておられました。現在、山口県内のNPO

法人は364法人ありますが、運営は厳しく財政は脆弱です。本システムは重要な役割を持っていますので、ご理解ご協力をよろしくお願ひします。



—NPO団体の皆様と—

## 全労済山口県本部 退職前セミナー開催

9月4日(土)に、39組66名参加のもと、ホテルサンルート徳山にて周南地区退職前セミナーを開催しました。

瀬光専務理事の挨拶で始まり、ファイナンシャルプランナーである上本 喜代美氏をお招きして、「定年後のライフプランニング～家計管理と公的年金・社会保険・税金～」のご講演をいただきました。続いて、全労済周南支所の辻野支所長より、各種共済の退職後の取り扱いについて講演がありました。

定年前から考える生涯設計については、『退職後どのように生活をしていくか?』早い段階での計画が必要ですが、今回の講演で改めて退職後生活について意識をしたという方が多くいらっしゃいました。



—NPO団体の皆様と—

全労済各種共済の退職後の取り扱いについては、退職後の必要保障額についての話もあり、共済の移行だけでなく現在加入している加入内容を見直したい、という声もありました。

今後も、各地区で同様に退職前セミナーを開催していく予定です。

保障のことなら  
**全労済**  
全国労働者共済生活協同組合連合会

山口県本部  
(山口県共済生活協同組合)

〒753-0215 山口市大内矢田360  
<http://www.zenrosai.coop/>

**2010年度「障害者運転免許取得特別支援講座」**

◇**県内で2校目を開講しました**◇

知的障害などを持つ生徒の「自動車免許取得を支援する特別講座」の開講式が、山口南総合支援学校（小郡自動車学校が教官派遣）において9月21日に行われました。この支援講座は障害者の職業能力開発による自立支援を目的とした県労福協の独自事業であり、2006年度から山口総合支援学校（湯田自動車学校が教官派遣）で開講し、今回の特別講座は県下で2校目の開講になります。開講式には県商工労働部、県教育庁特別支援教育推進室、西嶋県議からお祝いと激励の挨拶を受け、受講生（9名）を

代表して原 舞紀さんは「一生懸命勉強して免許をとり、仕事に就きたい」と決意を述べ開講式は終了しました。なお山口総合支援学校は11月30日開講予定。



**福祉ホットラインクラブ**

～ボランティア情報～



現在山口市と周南市の4つの高齢者施設でボランティアを続けている福祉ホットラインクラブ。各施設では、窓拭きや草取り、エアコンフィルター洗いや車椅子の掃除等の作業をしています。夏には納涼祭、冬には餅つき

のお手伝いもあり、入所者のみなさんと一緒に楽しみながら活動しています。活動日は毎週土曜の10～12時までの2時間で、誰でも参加OKです。ボランティア保険も当クラブで加入するので、安心して活動できます。

**【当面の活動予定】**

福寿荘（周南市）	共済苑（山口市）	梅光苑（山口市）	よしき悠々苑（山口市）
12月11日(土)	1月5日(土)	12月4日(土)	12月11日(土)
12月25日(土)	1月12日(土)	12月18日(土)	1月8日(土)
1月8日(土)		1月15日(土)	1月22日(土)
1月22日(土)			

参加希望の方は福祉ホットラインクラブ事務局までお電話ください。

**電話 083-925-7332**

生活あんしんネットより

# 労働相談事例



## 【相談概要】

大型商業施設内のファストフード店でパート職員として13年勤務している。勤務先が経営難のため1ヵ月後に店舗閉鎖し他企業に譲渡されることとなった。会社から退職届の提出を求められたので、再就職先の斡旋を頼んだら自分で探すように言われた。そこで退職届の提出を拒否したところ、解雇を通知された。これまで有給休暇も取らずに誠実に働いてきたのに、このような一方的な解雇には納得がいかない。

## 【回答・対応】

雇用契約では2011年4月まで雇用期間があることから、原則として雇用期間途中の契約解除（解雇）は認められず、会社側は他店への配転等で雇用を保証しなければならないことを説明。退職届の提出と解雇通知については、会社側へはっきり拒否するよう助言したところ、自身で会社に対抗するのは難しいとのことだったので連合山口ユニオンへの加入を勧めた。連合山口ユニオン加入後に会社と交渉し、解雇予告手当・有給休暇の買い上げ・退職和解金を相談者に支払うことで合意した。



## 西部労福協交流事業

★★★2011年度は萩往還ウォーク★★★

毎年開催されている西部労福協の交流事業は、四国88霊場めぐりで4県を巡礼し、来年度から「中国地方の文化・歴史探訪」で中国地方5県を巡ることとなりました。その第1回目が山口県「萩往還ウォークと萩市内視察」に決定しました。萩市明木から萩駅までの約6.5kmをウォーキングし、翌日には松下村塾や東光寺を観光する予定です。ぜひご参加ください♪



### 【萩往還とは】

萩市から山口市を通過して防府市までの全行程53kmの街道です。604年（慶長9）に萩に城がつくられ後、参勤交代のときなどに藩主が通る街道として整備されました。

山陰と山陽を結ぶ重要な交通路ともなり、明治維新の頃には多くの志士たちが往来しました。道筋には多くの史跡があります。